

## 能登半島地震 (発行日現在の名称) に寄せて

(1月9日全校集会講話より)

この度の地震によりお亡くなりになられた方々へ、明鏡高等学校より、心から哀悼の意を表します。

また、新潟県内を含めた被災地の一日でも早い復旧・復興を心よりお祈りいたします。

さらに、被災された明鏡高校の生徒やそのご家族及び多くの関係者の皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。

生徒の皆さんは、先日、メールでも配信しましたが、校舎内外の施設及び学校周辺の道路等については、現在のところ大きな危険個所は確認されていませんが、登下校に際しては十分注意をしてください。

もし、自分自身やご家族のことで不安なことがあるという人がいたら、話しかけやすい職員に伝えてみてください。職員が話を聞かせてもらうか、スクールカウンセラーや相談専門機関を紹介します。

### 災害被害軽減のための「自助」「共助」「公助」

内閣府の防災情報によると、災害被害の軽減には、「自助 (一人ひとりが自ら取り組むべきこと)」「共助 (地域や身近にいる人同士と一緒に取り組むべきこと)」「公助 (国や地方公共団体が取り組むべきこと)」が不可欠のことです。今回、大きな被害がなかったという生徒の皆さんも、災害発生時に備え、「自助」として、自分に何ができるのか日頃から考えておくことはとても大切なことです。

また、「共助」ですが、私は、2011年の東日本大震災発生から半月後に、福島県の海辺の高校に開設されていた避難所を訪れたことがあります。そこで見た光景は、今でもよく覚えています。様々な事情があるであろう高校生たちが、食事の配給や仮設トイレの掃除や水運びなどを、黙々と日常のここのようにこなしていました。お年寄りの方々は、そんな高校生たちの姿を見てとても安心しているように見えました。「共助」とは、結局は、心の支え合いなのだとあらためて実感させられました。高校生である皆さんは、「共助」について、それぞれが暮らす地域の一員として、共に考えることができる大切な存在なのではないでしょうか。

### 現在そして未来のあなたに期待すること

皆さんは、今、何をすべきだと考えていますか。「募金活動やボランティア活動に協力する。」「被災された方々へ思いを寄せて少しでも早い安寧を願う。」など、どれも大変尊い行いであり、その根底には、被災された多くの人に寄り添うおうとする気持ちや、災害を自分の事のように受け止めようとする思いがあるのではないのでしょうか。今回のような大災害時に、「今の自分には何ができるのか」「今の自分が本当にしなければならないことは何なのか」さらには「未来の自分ができるようになりたいこと」「未来の自分ができなければならないこと」について懸命に考えてください。あなたの知識や才能や経験が、あなたの思いや希望と結びついて、どんな場面で、どんな風に人の役に立つのか、高校生のあなたに懸命に考えてほしいのです。あなたのブレイン (思考) とハート (真心) が、そして、あなたの存在そのものが、将来、必ず誰かの役に立ちます。誰かを救うことになります。明鏡高校職員は、皆さんならそのような存在になれると信じています。

### 寄り添い合える仲間に

大きな災害などの危機的状況下では、どうしても互いに気を遣い合ったり、譲り合ったりすることが求められます。しかし、そのような状況下で心的距離を上手にとることはなかなか難しいものです。相手の気持ちが読み取れなかったり、個々の価値観が違っていたりして大きなストレスを抱えることもあります。その時に備え、まず、今の生活を見つめ直してみてください。日頃、仲間同士、互いに寄り添い合っていますか。いつの間にか、嫌な相手を避けようとしたり、自分の気持ちだけを押し付けようとしたりしていることはありませんか。相手から寄り添ってもらえるようになるためには、まず、自分から相手に寄り添おうとすることが大切です。

今回の被災で、明鏡生の中にも、物理的な被害だけでなく、心に大きな傷を負った仲間が、あなたのすぐ隣にいるかもしれません。何か声をかけるべきなのか、そっと寄り添うだけでいいべきなのか、あなたなりに考えてみてください。大きな不安やストレスを抱えているときこそ、仲間の寄り添いが大きな力になります。

<明鏡高等学校のスクールミッション>

生徒の個性や能力、夢や希望に応じた多様な学びの実現により、一人一人の可能性を拓く学校

上のスクールミッションは、新潟市立の三つの高等学校（中等教育学校後期課程含む）のうち、新潟市が明鏡高校に求める「学校像」です。明鏡高校には、様々な個性やライフスタイルに合わせた多様な教育活動が求められています。令和6年の年頭にあたり、あらためて、このスクールミッションについて、私たちが何をすべきかを考えてみたいと思います。

(1) ダイバーシティ教育を推進します。

ダイバーシティは「diversity」と表記されます。これは、ラテン語の「di：バラバラに」と「verse：向きを変える」を合わせた表現だそうで、日本語では「多様性」と表記されることが多いようです。私たちの社会には、ジェンダー、文化、人種、国籍、障がいなど様々な個性をもつ人が共存しています。だからこそ、互いに協力し、思いやり合いながら暮らしていかなければなりません。人の外面が様々であるように、人の内面も様々です。人それぞれに違いがあるのは自然なことであり、互いにその違いを認めたり受け入れたりするための配慮や態度、行動を促す教育を「ダイバーシティ教育」と呼んでいます。明鏡高校に通う皆さんこそ、どの高校に通う生徒より、ダイバーシティの意味を理解できると思います。明鏡高校では、学校生活の多くの場面で、生徒が主体的にダイバーシティについて考え、理解を深められる教育活動を推進していきます。

(2) 体験活動を通して自己有用感を育みます。

明鏡高校に通う生徒の中には、様々な事情により小・中学校で集団活動に参加した経験が少ない生徒や、辛い思いや悲しい思いを誰よりもしてきたと言う生徒が少なくありません。しかし、だからこそ、他の生徒が経験していないことや、他の生徒が考えなかったことを考えてきたのではないのでしょうか、そのような人は、誰よりも人の悲しみに寄り添うことができるはずです。それは、貴重な経験であり、大切な個性であり、今後の皆さんの人生において、大きな利器となりうる力です。

そして、その利器を、自信をもって、使うべき時に、適切な方法で使えるようになるためには、自身のその利器に自信をもつこと。もっと言えば、自分自身が社会にとって必要な人間であると言う実感、つまり自己有用感を育てることが大切です。自己有用感は、毎日の小さな成功体験や行事などでの大きな感動体験を積み重ねることで少しずつ育まれるものです。大勢の人に見られるのが苦手と言う人、人と会話をすることが苦手と言う人にとって、それらの場面は、時として大きな不安を感じるかもしれません。明鏡高校では、生徒一人一人の状況に応じ、少しずつ、社会の中で自己実現できるよう、体験活動を大切にしていきます。

(3) 人と人のつながりを大切にします。

春先に、皆さんの「挨拶」について話したことを覚えているでしょうか。私はこれまでの教員生活において、挨拶は「大きな声で元気よく」が当たり前のことと思っていましたが、日常生活の中では、場合によっては不自然に映る場合もあります。しかし、明鏡高校の皆さんと交わす挨拶は、とても自然な挨拶ばかりでした。街中で知り合い同士が交わし合うような自然な挨拶でした。私はそれに大きな感動を覚え、様々なところでそのことを紹介してきました。人と人のつながりの最初の一步が挨拶であるなら、明鏡高校の皆さんは、どこよりも素晴らしい「つながり」を実践していると思います。振り返って、私たち教職員は、皆さんほど自然な挨拶ができていますでしょうか。それについては大いに見習わなければならないと反省しています。

また、私たちの日々の学校生活は、生徒と教職員だけで進められるものではありません。保護者の皆様、地域の皆様、その他学校を支援してくれている多くの皆様のご協力があって初めて成り立っています。感謝の気持ちを忘れずに、多くの人に助けをもらいながら、人と人とのつながりを学んでいきたいと思っています。それには、私たち教職員が、まずそのような思いを新たに、多くの方々からのご支援を得られるよう努めていかなければなりません。人と人とのつながりを大切にすることにかけては、明鏡高校が、日本一の高校だと胸を張って言える学校を目指します。